田んぼと畑のサポート通信

農産plus

Vol.4

2026
April

公益社団法人
北海道農産基金協会

一般社団法人
北海道農産協会

新年度を迎えて

（公社）北海道農産基金協会　理事長
（一社）北海道農産協会　会長
樽井　功

令和８年度を迎えるにあたり、皆さまにご挨拶を申し上げます。

日頃は、公益社団法人北海道農産基金協会ならびに一般社団法人北海道農産協会の各種事業に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も世界各地で異常高温が発生し、各国の年平均気温や季節平均気温の記録更新が伝えられ、気象災害も多く発生しました。日本においても全国各地で夏は猛暑となり、北海道内においても、記録的な高温・干ばつや豪雨により広範囲にわたって各作物の収量や品質に影響が出た一年となりました。

両協会では、近年の異常高温による収量・品質の低下を受け、北海道、関係機関等と連携し、これからの本道に適した栽培技術の開発・普及をはじめ、生産振興事業を展開しております。時間を要する取り組みではありますが、生産現場に大いに役立てるよう、引き続き取り組めてまいります。

国では一昨年の「食料・農業・農村基本法」改正に基づく初の「食料・農業・農村基本計画」が昨年策定されました。食料安全保障の確保に向けて、北海道農業の持続的発展と、JA グループ北海道で取り組む将来ビジョン「力強い農業」「豊かな魅力ある地域社会」の実現に向けて、両協会としても力を結集していきたいと考えます。

本年度も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

役　員

北海道農産基金協会 北海道農産協会 共通役員	理事長・会長	樽井　功	（北海道農業協同組合中央会　代表理事会長）
	副理事長・副会長	橋本弘幸	（ホクレン農業協同組合連合会　代表理事副会長）
	専務理事	五藤一彦	（学識経験者）
	常務理事	小林信樹	（学識経験者）
	理事・審議委員	金子辰四郎	（ようてい農業協同組合　代表理事組合長）
	理事・審議委員	髙井一英	（とうや湖農業協同組合　代表理事組合長）
	理事・審議委員	今村隆徳	（道央農業協同組合　代表理事組合長）
	理事・審議委員	畑山義裕	（東旭川農業協同組合　代表理事組合長）
	理事・審議委員	佐野成昭	（津別町農業協同組合　代表理事組合長）
	理事・審議委員	前川厚司	（幕別町農業協同組合　代表理事組合長）
	監事	岩田清正	（きたそらち農業協同組合　代表理事組合長）
	監事	飯島浩	（中標津町農業協同組合　代表理事組合長）
	監事	末永仁宏	（末永公認会計士事務所　所長）
北海道農産基金協会 単独役員	理事	植村一郎	（北海道農政部生産振興局　農産振興課長）
	理事	松尾元	（公益財団法人日本豆類協会　常務理事）
	理事	梶原雅仁	（豆の国十勝協同組合　理事長）
	理事	太田孝夫	（北のでんぷんを考える会　会長）
	理事	荒井義久	（公益社団法人北海道酪農検定検査協会　専務理事）
北海道農産協会 単独役員	副会長	柏木孝文	（ホクレン農業協同組合連合会　代表理事副会長）
	審議委員	横道重人	（新函館農業協同組合　代表理事組合長）
	審議委員	花井秀昭	（るもい農業協同組合　代表理事専務）
	審議委員	箱石文祥	（北海道食糧事業協同組合　理事長）
	審議委員	髙井博美	（北海道農産物集荷協同組合　代表理事）
	審議委員	永野賢幸	（北海道製粉連絡協議会　事務局長）
	審議委員	木山邦樹	（日本甜菜製糖株式会社　取締役専務執行役員札幌支社長）
	審議委員	山本康人	（北海道糖業株式会社　取締役常務執行役員）

令和８年度　北海道農産基金協会の主な事業

（1）豆類関係事業

○　豆類価格安定対策事業
- 赤系金時の保管事業及び価格差補てん事業、安定供給緊急対策事業
- 金時及び大手亡に係る基準価格等の設定

○　豆類生産流通安定推進事業
- 生産、流通、実需、行政等の関係者による豆類需給安定会議の開催

○　豆類消費啓発助成等事業、豆類調査研究助成事業
- 公募により選定された先への助成・支援

○　豆類流通円滑化緊急対策事業

（2）馬鈴しょ関係事業

○　研究助成事業
- 馬鈴しょの安定生産を目的とした品種改良、病害虫対策及び栽培技術の開発に関する事業を公募、選定先への助成

○　普及啓発事業
- 馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催

○　需給調整事業
- 馬鈴しょ安定供給緊急対策事業（でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会への参加）

（3）小麦関係事業　※詳細は最終頁参照

○　研究開発支援事業

○　付加価値向上事業

（4）青果物関係事業

1）野菜関係

○　野菜価格安定対策事業

○　青果物生産出荷安定対策事業

○　国産野菜周年安定供給強化推進事業
- 加工・業務用野菜生産基盤強化に取り組む団体に対する事務支援

2）果実関係事業

○　果樹経営支援対策事業
- 優良品目・品種への転換等に要する経費の助成

○　全国果樹技術・経営コンクール

令和８年度　北海道農産協会の主な事業

（1）良質米麦生産技術向上対策事業

○　米麦の基本栽培技術・新品種栽培技術の普及に係る啓発の資材作成・配付

○　病害虫対策技術情報の提供・啓発

○　気象変動に対応した米麦の安定確収技術対策の提供

○　良質米麦安定生産技術講習会および総合改善研修会の開催

○　米麦共励会等を通した優良事例収集と普及

○　水稲種子の生産技術啓発

○　技術指導情報誌の「農産技術だより」の発行・配付

（2）てん菜事業

○　原料てん菜の受け渡し及び糖分測定立会事業・原料てん菜立会人による立会業務の推進、糖分測定センターの点検等の実施

○　試験研究事業（道総研農業試験場等との連携のもとで実施）
- てん菜輸入品種検定試験
- テンサイ褐斑病防除における効果的な防除技術の開発
- 直播てん菜における播種機タイプに応じた砕土・整地方法の調査研究

○　普及啓発事業
- 高品質てん菜づくり講習会の開催、てん菜糖業年鑑、「てん菜だより」の作成・配布

（3）農産物検査事業

○　農産物検査員の育成並びに鑑定技術の向上のための研修会等の開催、現地指導

○　関係法令・業務規程の遵守に向けた情報発信・内部監査の実施

○　地区検査指導体制の構築支援

Topics

北海道農産基金協会
事業部 豆類事業

豆類消費啓発事業

「豆の日」の認知拡大と豆消費拡大を図るため、令和７年度事業として、イオンと三笠高校がコラボして道産豆を使ったオリジナル弁当を考案し、イオン三笠店他３店舗で販売しました。

また、その他取組みでは、札幌市内で「甘くない豆料理教室」を開催し、豆の栄養や機能性などの知識の普及を図り、多様な調理法を紹介し、豆類の消費拡大や普及啓発を目指す事業を展開しております。

北海道農産基金協会
事業部 馬鈴しょ事業

でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会に後援として参加しました

北海道産でん粉原料用馬鈴しょの生産意欲の高揚と生産技術および品質・収量の向上、生産振興を図るために、他の範となる生産実績となった優良技術を広く紹介することを目的に開催されました。表彰式は令和７年６月10日に開催され、北海道オホーツク総合振興局長賞をはじめ７賞について生産農家に表彰されました。

馬鈴しょ及びでん粉講習会を開催しました

国産でん粉の生産と需給対策並びに馬鈴しょ栽培に関する技術講習により、馬鈴しょの高品質かつ合理的な栽培と生産技術の普及・向上を図ることを目的に、ホクレンと共同にて第32回馬鈴しょ及びでん粉講習会を幕別町、網走市にて開催しました。「コナヒメ」の安定生産に向けた栽培技術やジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種に関する報告、でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会での優良事例並びに、道産馬鈴しょでん粉を原料としている株式会社崎陽軒より講演をいただきました。また高温対策、疎植栽培等に対してパネルディスカッションを行いました。

北海道農産基金協会

事業部 青果物事業

全国果樹技術・経営コンクールで余市町の弘津雄一様が表彰されました

第 27 回コンクールにおいて、「農林水産大臣賞」を受賞し、2 月 19 日東京で表彰式が行われました。

醸造用ぶどうを作付けし、大手メーカーとの全量契約で経営を安定化、品種更新や収穫期分散により品質安定と効率的経営を実現しています。

片側水平コルドン仕立てによる雪害回避、花冠除去や断根等の耕種的防除、有機肥料施用による病害抑制など環境負荷低減技術を確立して高品質ぶどうを安定生産しています。

また、実需者視察や消費者イベントへの積極参加によりブランド力を向上、ゲストハウス整備や担い手支援で地域発展に貢献、温暖化対応品種導入や新商品開発にも挑戦しています。

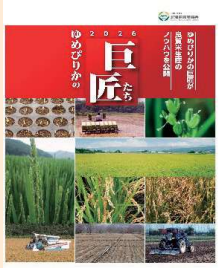
北海道農産協会

米麦部

小麦品質等調査実習　～ホクレンくるるの杜にて

2025 年 11 月 28 日ホクレンくるるの杜にて、小麦の品種育成・栽培指導・産地流通に携わる関係機関・団体の担当者を対象に、手打ちうどん実習を開催しました。本実習は、株式会社トリドールホールディングスのご協力により、「丸亀製麺」で唯一“麺匠”の称号を持つ藤本智美氏と、職人育成課の山木栄三氏を講師にお迎えし、実際に手打ちうどんの制作工程を体験いただきました。参加者は 6 種類の小麦粉について、品種ごとの水回しや生地づくり、のし作業のしやすさに加え、ゆで上がり後の色・香り・食感、総合的な美味しさなどを比較・評価しました。参加者からは、「日本めん用やパン中華めん用小麦粉の特性をより深く理解できた」といった声が寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。

『2026「ゆめぴりかの巨匠」たち』による良質米生産ノウハウ「動画」と「冊子」



「北海道米の新たなブランド形成協議会」では、2015 年より高品質な「ゆめぴりか」を 10 年連続で生産した方を対象に「ゆめぴりかの巨匠」の表彰区分を設けました。その中で取材にご協力いただいた 7 名の方に「良質米生産のノウハウ」をお聴きし、1 冊の「冊子」と一人 10 分程度の「動画」に纏め、全道の水稲生産者へ更なる良質米生産に向けた情報発信を行っております。

北海道米麦共励会表彰式を開催

2026 年 2 月 13 日、ホテルモントレエーデルホフ札幌にて、第 63 回「北海道優良米生産出荷共励会」並びに第 46 回「北海道麦作共励会」の最優秀賞受賞者を表彰する、令和 7 年度北海道米麦共励会表彰式を開催しました。これまでは稲作・麦作総合改善研修会の中で表彰式を行ってきましたが、今年度からは、共励会に出展いただいた受賞者との交流を深め、今後の生産技術の向上と農業振興に資することを目的に独立した表彰式として実施しました。表彰式では、各共励会の審査委員長より受賞者の経営概要や取り組みに関する審査講評がなされました。会場では受賞者を囲み、関係者の皆様とともに受賞を祝う和やかな雰囲気に包まれ、意義深い表彰式となりました。

北海道農産協会
てん菜部

高品質てん菜づくり講習会を開催

てん菜部では、立会事業（原料受入・糖分測定）を通じた原料取引の円滑な推進や優良品種の導入、新たな技術開発の支援とともに、普及啓発や調査研究事業を実施しています。

普及啓発事業では、消費者に向けた砂糖の正しい知識の普及とともに、てん菜生産の関係者を対象にてん菜をめぐる情勢や試験研究の成果などの情報提供に取り組んでいます。本年度は、講習会を十勝管内芽室町にて開催しました。講習会では、ＪＡ北海道中央会より「てん菜をめぐる情勢」について、北海道立総合研究機構農業試験場より「令和７年度てん菜の生育経過と今後の留意点」（写真：池谷研究主幹）、「近年のてん菜病害虫について」をテーマにそれぞれ、ご講演をいただきました。

てん菜の生産振興に向けて

てん菜の作付けは減少傾向にありますが、農林水産省は畑作物の直接支払の交付基準を見直すこととしており、北海道は適切な輪作体系を推進するため、栽培が減少しているてん菜の作付面積に応じて、農薬費増加分の一部を支援することとしています。こうした、国や道の取り組みとあいまって、てん菜とてん菜生産に寄与する取り組みとして、協会においても、収量・品質の向上や労働負荷の軽減等に貢献できる研究開発の支援や開発された技術等の普及啓発に努めてまいります。

北海道農産協会
検査部

農産物検査員の育成と検査技能の維持向上に取り組んでいます

検査部では、北海道内の農産物検査を適確に行うため、本部に技監･技監補３名、各地区に統括検査員 13 名を配置し、従たる事務所（89 ケ所）に登録されている検査員 845 名とともに検査業務を行っております。

新たな農産物検査員の育成にあたっては、育成研修を開催し、関係法令の講義や鑑定実習などを行い、今後の円滑な検査体制づくりを進めています。

研修に参加し、全ての課程を修了した 92 名は、令和８年度から検査業務を行う予定となっています。

また、有資格者においても、関係法令の習熟と鑑定技能の研鑽を図るため、格付検討会や技能履修確認会などの開催やニュースレターによる関連情報の周知に取り組みしています。

令和８年１月には農産物検査鑑定研修会を開催し、91 名の検査員が玄米・普通小麦・大豆の各部門に分かれ検査技術を競い、優秀な成績を収めた検査員を表彰いたしました。

Interview

協会役員のお二方に、北海道の耕種農業そして組織運営について思いの一端をお聞かせいただきました。

畑山 義裕（東旭川農業協同組合　代表理事組合長）

自身は、ピーマン・ミニトマト等の施設園芸を主に営んでおります。組合長としては４期目をむかえており、令和３年度から両協会の理事・審議委員を務めています。

ＪＡは、旭川市東部に位置し水稲を中心とした多様な農産物生産を背景に、正組合員数 280 名、販売取扱高は 18 億円余、貯金 234 億円、長期共済保有高 273 億円と都市型の形態となっており、経営合理化のためには店舗の統廃合も進めていかなくてはなりません。

農業振興策としては、無農薬・無化学肥料の特別栽培米（ゆめぴりか）など、旭川市が宣言した「オーガニックビレッジ」と連携した有機栽培の取り組み、また、農地維持や担い手確保のため、農業経営子会社「アグリファースト」を設立し生産の強化を図っています。常に時代の変化に対応して行きたいと思っています。

地域として、担い手不足は深刻な課題で、中核都市にあっても働き手の応募が少なく外国人特定技能実習生も減少してます。実習生は貴重な人材であり、受け入れ態勢の充実強化が必要です。

生産者の多様な営農形態に応えるためにはＪＡとして生産施設投資が必須です。こうした課題も見据え、現在、上川中央部の４ＪＡで合併協議を行っています。

髙井 一英（とうや湖農業協同組合　代表理事組合長）

令和２年の両協会設立以来、監事、理事・審議委員を務めています。ＪＡとうや湖は 1987 年に道内初の広域合併農協として誕生しました。その後、生産者は７割減少し、現在は正組合員数 300 名余、販売取扱高は 72 億円ほど（畜産 43 億円、青果 22 億円、農産７億円）です。

農業振興方策として、化学肥料・農薬の低減や環境配慮型農業を早くから推進しており「YES! clean」認証、さらには GLOBAL GAP 認証をＪＡとして日本で初めて取得するなど、安全性と品質向上を図り、また環境負荷を減らすため雪蔵野菜貯蔵施設により電力・CO_2 削減にも取り組んでいます。こうした規模のＪＡであっても出来るところを先んじて取り組み、消費者にアナウンスしていこうと思っています。

当地区においても担い手不足・耕作放棄地対策は大きな課題です。この対応の一環として、ＪＡ若手職員によるプロジェクトを立ち上げ、遊休農地の維持再生の可能性を探るため、ＪＡの仕事をしながら農業にも従事する「半職半農」にチャレンジし、現在はサツマイモ栽培をしています。この取り組みは実践的な営農支援が出来る職員の育成、将来的にはＪＡによる農業経営につなげることも見据えています。

両協会の事業は、生産現場に直結するものが多く、今後もその機能発揮を期待しています。当ＪＡは果樹栽培も盛んであり、農産基金協会の協力により、リンゴ高密植栽培が果樹経営対策支援事業の対象となれたことには、生産者ともども大変感謝しています。

両協会は、生産者組織・行政・実需者で構成されていますので、幅広に情報交換を行いながら地域農業の発展に寄与してほしいと思っています。

農産基金協会では生産者からの資金を活用して小麦への支援（小麦生産振興事業）を始めます

令和８年度より、ＪＡ北海道中央会の事業を引き継ぎ、小麦生産振興事業をスタートさせます。

今までＪＡ北海道中央会が“北海道産麦生産流通安定対策事業【基金設置事業】”にて管理していた基金について、管理運用を当協会に移管し、その運用益を活用して１～３の取組を行い、地域農業の更なる振興をめざします。

１．研究開発支援事業

温暖化などの気候変動に伴う、病虫害や気象災害に強い道産小麦の品種開発などを支援するため、道総研や農研機構北海道、ホクレンなどの研究機関に対し支援を行います

２．付加価値向上事業

道産小麦の需要拡大につながる付加価値の向上をめざし、生産者団体や製粉事業者の皆様方と連携した取り組みを進めます

例：道産麦コンソーシアム事業に参画することなどを予定

３．その他必要な事業

必要に応じて輪作体系の確立に資する事業等を実施します

現在、当協会では、豆類や馬鈴しょ、青果物等において資金の運用実績があり、それを基に各種事業を行っています

編集後記

両協会の対象の品目は、稲作そして野菜・果樹を含む畑作と耕種品目全般を網羅する。組織の一体的運営のなかで、それら全体を俯瞰できるメリットは小さくないが、品目ごとの変化する浮き沈み、そして所得差を感じざるを得ない。

前年もそれぞれの品目で、様々な要因の影響を受け、稲作をはじめ一部品目は堅調、一方てん菜・馬鈴しょ（特にでん粉原料）等は、作柄を主因として厳しいものとなった。政策支援の意義が注目されるなか、多くの関係者が尽力し、少なくない成果を得たが、これを契機に「新しい風が吹く」ことを大いに期待する。

本年度より北海道農産基金協会では「小麦生産振興事業」がスタートする。事業の目的さらに思いも引継ぎ、生産者・北海道農業への貢献を肝に銘じ取進めたい。

公益社団法人
北海道農産基金協会
Hokkaido Agriculture Fund Association
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階
TEL 011-206-1551　FAX 011-232-1016
https://www.nousan-kikin.or.jp

北海道農産基金協会
ホームページ

一般社団法人
北海道農産協会
Hokkaido Agricultural Association
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階
TEL 011-232-6495　FAX 011-232-3673
https://hokkaido-nosan.or.jp

北海道農産協会
ホームページ